



学校だより

No.6

8・9月号

令和2年8月17日

横浜市立洋光台第四小学校

ホームページもご覧ください。 www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai4

「できた!」「分かった!」の声をいっぱい…

児童支援専任 竹内 智子

セミの鳴き声が響く夏の日差しの中、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。

今年の夏休みは、例年になく短さではありましたが、元気な顔で登校してくる児童を迎え、うれしい気持ちになりました。子どもたちの声は、学校のパワーの源です。

「やったあ!」「見て、見て!いま乗れたよ。」「1歩、歩けた!」

少し前の話で恐縮ですが、学校再開から1ヶ月、元気に遊ぶ子どもたちの声が校庭に戻ってきた中、休み時間に竹馬に挑戦している子どもたちの姿がありました。校庭見守りをしていた私は、「棒を少し前にして」「脚をべったり乗せないで、つま先立ちのように…」と声かけをしているだけですが、チャレンジする子どもたちは、みんな真剣な顔。棒を前方にし、足裏の重心を前にして立つことは、低学年の子どもにとっては、少し勇気のいることです。何度も倒れそうになりながら、不安な気持ちを奮い立たせて挑戦し続け、だんだんバランスのととり方を体で覚え、そのうち突然、竹馬に乗り、一歩足が出る…初めて竹馬に乗れた瞬間でした。

学校生活では、様々な場面で新しい経験をする機会や集団で活動する場面がたくさんあります。のぼり棒やうんでいゴールまでたどり着くこと、かけ算九九の暗記(2年算数)、火起こし体験(6年社会)、学級会での話合いや総合的な学習の中でグループ活動を進めること等々、挙げればきりがありません。それらを達成するまでの過程は、決して楽な時ばかりではなく、うまくいかず悩みあきらめたい気持ちと葛藤したり、自分の気持ちが相手に伝わらず悔しい気持ちを味わったり、時にはみんなで考えた活動なのにうまくいかず悩んだりすることもあります。でも、子どもたちは考え、目標に向かって前向きに努力し続けています。最後には苦労しながらもうまくいった達成感や、一人の力ではなしえなかったことができた満足感を体感します。そして、それを認め、分かち合える友達がいたり、集団の力が結集した時のパワーを感じたりしてみんなでできたから楽しい!を感じたりする、そういう経験ができるのも学校ではないかと思っています。

子どもたちの思いを一番近くで見取り、具体的な指導・支援をしていくのは担任ですが、その側面から子どもたちに関わり、担任と連携してサポートするのが児童支援専任の役割だと私は考えています。時には立ち止まることもあります。そういう一人ひとりに寄り添い、「できた!」「分かった!」「がんばるぞ!」という声が1つでも増えていくよう支援していきます。また、カウンセリングの相談窓口や学校につながる様々な関係機関との連携担当もしていますので、お気軽にお声をかけてください。

お子さんに関わる一番身近な大人として、保護者の皆様と学校とが両輪となり、同じ方向で子どもたちに寄り添うことが大事だと思います。これからも、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。